

学校教育評価表（小・中学校）

学校名

大津市立伊香立小学校

評価の基準（3:よくできた 2:できた 1:あまりできなかった 0:まったくできなかった）

項 目	評 価 の 観 点		自己評価 (3・2・1・0)	学校関係者評価 (3・2・1・0)	関連するSDGsの 目標(参考)
主体的・対話的で深い学 び	1	支持的風土を育てる学級・学年集団づくりの実践	2	3	
	2	協働する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善(ICTの活用含む)	2		
	3	主体的・対話的で深い学びを追究する授業研究や研修会の実施	2		
道徳教育の充実	4	生命を尊重する心やいじめを許さない態度などの道徳的実践力を育てる活動の実施	2	3	   
	5	ものごとを様々な視点からとらえ考えさせる道徳科の授業・評価に関する研究	2		
	6	保護者等への道徳科の授業公開	2		
体力づくり	7	たくましい心と体を育てる魅力ある授業の工夫改善	2	3	 
	8	体力づくりを推進する運動実践	2		
	9	生涯にわたって健康を保持増進し、進んで体を動かそうとする意欲の育成	2		
指導改善 (組織的・計画的)	10	学力向上を目指した指導体制・指導方法の工夫改善	2	3	 
	11	教職員の指導力、情報活用能力、及び組織的な教育力の向上	2		
	12	働き方改革の取組と教育活動の質の改善	2		
育ちと学びを支える 連 携					
① 家庭・地域との 連携・協働	13	子育てや家庭教育に対する 保護者への積極的な支援	3	3	   
	14	保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会、研修会の実施、地域人材の活用	2		
	15	防災教育・感染症対策等の推進を含む、地域の実態に応じた安心・安全な学校づくり	2		
② 保幼小中の 連 携	16	子どもの校種間交流や教員の出前授業	2	2	
	17	校種間の授業公開や合同研修会	2		
	18	保幼小中の接続期の教育課程編成等、円滑な接続を図る校種間のカリキュラム研究	2		
組織的体制の 充 実					
① 生徒指導体制の 充 実	19	いじめや暴力行為、不登校等生徒指導上の諸課題の早期発見、日常的な予防指導 ※	2	2	   
	20	生徒指導・教育相談体制の確立と組織的な推進 ※	2		
	21	家庭・地域・関係機関との連携による指導	2		
② 特別支援教育の 充 実	22	個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成と活用	2	2	   
	23	組織的・計画的な特別支援教育体制の確立	3		
	24	関係機関と連携した相談体制の充実	2		

※ 特にいじめについては、学校基本方針の評価と関連させて行うこと

学校満足度	25	児童生徒の学校満足度	3	3
-------	----	------------	---	---

※	児童生徒アンケートのすべての評価の平均値(3点満点、小数第2位まで記入)	2.55
※	保護者アンケートのすべての評価の平均値(3点満点、小数第2位まで記入)	2.28

* 各校の学校評価書から上記の1～25の観点にかかる自己評価および学校関係者評価結果を取り出し、本表に移記ください。

* 評価の項目と関連があると考えられるSDGsの目標を参考として表示しています。

2024年度 学校教育評価表

(大津市立伊香立小学校)

A: 3.0-2.5 B: 2.4-1.5 C: 1.4-0

項 目	教職員により自己評価 (3:よくできた 2:できた 1:あまりできなかった 0:まったくできなかった)				保護者によるアンケート (3そうである・2どちらかといえそうである・1どちらかといえそうでない・0そうでない)			児童アンケート (3そうである・2どちらかといえそうである・1どちらかといえそうでない・0そうでない)			学校協力者評価 (3そうである・2どちらかといえそうである・1どちらかといえそうでない・0そうでない)			評価委員会 (3・2・1・0)			
	評 価 の 観 点	評 定	昨年度		評価項目	評 定	昨年度	評価項目	評 定	昨年度	評価項目	評 定	昨年度	評 定	昨年度	意見・提言等	来年度に向けての改善点
主体的・対話的で深い学び	1 支持的風土を育てる学級・学年集団づくりの実践	2.2	B	2.4	子どもは、学校に行くのが楽しいと言っている。	2.3	B	2.4	わたしは学校に行くのが楽しい。	2.5	A	2.5	子どもが元気に仲良く学校へ通う姿が見られる。	2.6	A	2.6	
	2 協同する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善 (ICTの活用含む)	2.2	B	2.4	子どもは、授業 (体育以外) が楽しく分かりやすいと言っている。	2.1	B	2.0	わたしは勉強していることがよくわかっている。	2.4	B	2.3				2.31	2.35
	3 主体的・対話的で深い学びを追求する授業研究や研修会	2.2	B	2.2													
道徳教育の充実	4 生命を尊重する心やいじめを許さない態度などの道徳的実践力を育てる活動の実施	2.4	B	2.4	子どもは、学校生活を通して人に優しく、相手を思いやる気持ちが育っている。	2.3	B	2.2	わたしは、学校のきまりを守っている。 わたしは、困っている人や小さい人に親切にしている。	2.5	A	2.3 2.4	子どもは、学校生活を通して人に優しく、相手を思いやる気持ちが育っている。	2.5	A	2.4	
	5 道徳科の授業・評価に関する研究や資料の開発・整備・交流	1.9	B	2.2				わたしは、道徳の勉強は大切だと思う。	2.7	A	2.7					2.33	2.34
	6 保護者等への道徳科の授業公開	2.2	B	2.5	学校や先生は、道徳の授業内容について積極的に発信している。	2.1	B	2.0									
体力づくり	7 たくましい心と体を育てる魅力ある授業の工夫改善	2.2	B	2.2	子どもは、体育の授業が好きである。	2.3	B	2.3	わたしは、体育の勉強が好きである。	2.5	A	2.5	子どもは元気に体を動かして遊んでいる。	2.6	A	2.4	
	8 体力づくりを推進する運動実践	2.2	B	2.2												2.36	2.31
	9 体を動かす気持ちよさを体験させ、進んで体を動かそうとする意欲の育成	2.2	B	2.0	子どもは、運動が好きである。	2.4	B	2.4	わたしは、学校の勉強以外でも体を動かすことが好きである。	2.5	A	2.5					
指導改善 (組織的・計画的)	10 学力向上を目指した指導体制・指導方法の工夫改善	2.3	B	2.2	先生は、学力の定着のためにきめ細かな指導をしている。	2.2	B	2.1	先生は勉強をわかりやすく教えてくれる。	2.7	A	2.5	教職員は子どもたちの教育に真摯に取り組んでいる。	2.7	A	2.8	
	11 教職員の指導力、情報活用能力、及び組織的な教育力の向上	2.3	B	2.3	学校は、子どもの学習や生活の様子を、分かりやすく正しく評価している。	2.3	B	2.3	担任 (たんにん) の先生 (せんせい) だけでなく、いろいろな先生が注意してくれる。	2.5	A	2.4	学校は教員の指導力や教育力向上のために積極的に取り組んでいる。	2.5	A	2.5	2.37 2.37
	12 働き方改革の取組と教育活動の質の改善	1.8	B	1.8									2.60	A			
育ちと学びを支える連携																	
① 家庭連携・地域協働との	13 保護者の子育てに対する積極的な支援	2.0	B	2.5	学校は、気軽に相談したり訪問したりできる雰囲気がある。	2.2	B	2.1				学校は気軽に訪問しやすい雰囲気がある。 教職員は明るく親しみやすい。 保護者 (PTA) は学校と協力して子育てに取り組んでいる。	2.8 2.5 2.4	A A B	2.6 2.5 2.4		
	14 保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会、研修会の実施、地域人材の活用	2.2	B	2.2	学校は、教育目標やめざす子ども像を分かりやすく伝えている。 学校は、保護者と連携・協力して子どもを育成しようとしている。 学校は通信等で日々の教育活動や内容を分かりやすく伝えている。	2.1 2.3 2.4	B B B	2.2 2.3 2.5				学校は教育目標や目指す子ども像を地域に伝えている。 学校は地域の人々と協力して教育活動を進めている。 学校は子どもの様子や教育活動をわかりやすく伝えている。	2.7 2.8 2.6	A A A	2.9 2.9 2.6	2.42 2.48	
	15 防災教育の推進、感染症対策の推進等、安心・安全な学校づくり	2.2	B	2.3	学校は、避難訓練や感染症対策等安心・安全な学校づくりに取り組んでいる。	2.2	B	2.4	わたしは、避難訓練は大切だと思う。 わたしは、コロナやインフルエンザにからないように手洗いをしっかりとするなどいつも気をつけている。	2.9 2.5	A A	2.9 2.5	学校は防災教育や感染症対策の推進に努め、安心・安全な学校作りに取り組んでいる。	2.4	B	2.5	
	16 子どもの校種間交流や教員の出前授業	2.1	B	1.8													
	17 校種間の授業公開や合同研修会	1.8	B	2.2												1.90	1.83
② 保幼小中の連携	18 保幼小中の接続期の教育課程の編成等校種間のカリキュラム研究	1.8	B	1.5													
組織的体制の充実																	
① 生徒指導体制の充実	19 いじめや暴力行為、不登校等生徒指導上の諸課題の早期発見、日常的な予防指導 ※	2.2	B	2.3	先生は、いじめや仲間はずれを許さない姿勢で指導している。	2.4	B	2.3	先生は、みんなのいけないうところや間違ったことを叱ってくれる。	2.6	A	2.6	学校は、いじめや暴力行為、不登校等生徒指導上の諸課題の早期発見、日常的な予防の指導に取り組んでいる。	2.2	B	2.3	
	20 生徒指導・教育相談体制の確立と組織的な推進 ※	2.1	B	2.2	先生は、子どものよさや努力したことを認めよう心がけている。 先生は、子どもの心配や悩みを理解し、誠実に対応している。	2.5 2.3	A B	2.3 2.2	先生はみんなのよいところやがんばったことを褒めてくれる。 先生は相談しやすい。	2.6 2.4	A B	2.6 2.2	学校は、生徒指導・教育相談体制が確立され、組織的に対応している。	2.5	A	2.6	2.40 2.43
	21 家庭・地域・関係機関との連携による指導	2.3	B	2.4	学校は、保護者と連携・協力して子どもを育成しようとしている。	2.3	B	2.3	わたしには、友だちがたくさんいる。 わたしは、進んであいさつをすることができる。	2.8 2.3	A B	2.8 2.4	子どもたちは気持ちのよいあいさつや正しい言葉づかいができる。 子どもたちは地域の行事に積極的に参加している。	2.2 2.7	B A	2.1 2.1	
	22 個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成と活用	2.3	B	2.4													
② 特別支援教育の充実	23 組織的・計画的な特別支援教育体制の確立	2.3	B	2.5												2.23	2.40
	24 関係機関と連携した相談体制の充実	2.1	B	2.3													

※ 特にいじめについては、学校基本方針の評価と関連させて行うこと

学校満足度	2.5	児童生徒の学校満足度	2.5	A	2.5
-------	-----	------------	-----	---	-----

2.15 2.28

2.55

2.47

※ 児童生徒アンケートのすべての評価の平均値 (3点満点、小教第2位まで記入)	2.55
※ 保護者アンケートのすべての評価の平均値 (3点満点、小教第2位まで記入)	2.28

別紙参照

2024年度 学校教育評価表
(大津市立伊香立小学校)

項 目		評 価 の 観 点		自己評価				評価委員会 (3・2・1・0)	
				小項目 評価	昨年度	中項目 評価	昨年度	意見・提言等	来年度に向けての改善点
1	主体的・対話的で 深い学び	1 支持的風土を育てる学級・ 学年集団づくりの実践	2.2	B	2.4	2.31	2.35	評定の根拠 教・児・保・協の評定平均が2.31のため。 総合的な評定は、わずかではあるが、昨年度よりも0.04ポイント下がっている。 ①項目1の児童の回答については、全体の89％がA：している、B：どちらかといえば しているという結果となり、集団を高め、楽しい学校生活を送っている様子が窺える。 ②「1人1台端末」になり、教職員も積極的にICTを活用している。このように各教科等 の取り組みにおいて積極的に活用された結果、項目8についての児童の結果は、A：して いる、B：どちらかといえばしているの回答が87％を示している。 ③項目2について保護者の評価をみると、昨年度は72％、今年度が75％（Aが3 1％、Bが45％）と少し上回った。 ④教職員の評価について、項目1の内容については、継続して取り組めているといえ る。項目2のICTの活用については、AB合わせて94％と回答している。 ⑤今年度は校内研究の取り組みとして、めあてと振り返りを中心に「書く」ということ を重視した内容で実施した。	①次年度のテーマはまだ未定ではあるが、次年度も長期休業中に外部講師に来ていただ く研修を行う。 ②学習規律の基本的な姿勢（人の話を聞く、話し方等）を大切にしていく。 ③対話的な活動を行うために、系統だった話型を参考にしていく。 ④ICTについては、今後さまざまな場面においての活用が期待できる。 ⑤今後さらに子どもたちの生きる力の向上に向けた、教職員の指導力向上を目指す。校 内研究等の活用により、ベテラン教員から若手教員への人材育成や若手教員に学ぶ機会 を設け、教職員の資質・能力の向上を図る。 ⑥授業改善や子ども支援に向けた取り組みとしては、教職員全体で交流する場面を設定 し、全教職員で全校生徒の成長を支援する意識を高める。
		2 協同する体験・伝え合う喜 び・コミュニケーション能力 の育成を図る授業の工夫改善 （ICTの活用含む）	2.2	B	2.4				
		3 主体的・対話的で深い学び を追究する授業研究や研修会	2.2	B	2.2				
2	道徳教育の充実	4 生命を尊重する心やいじめ を許さない態度などの道徳的 実践力を育てる活動の実施	2.4	B	2.4	2.33	2.34	評定の根拠 教・児・保・協の評定平均が2.33のため。 総合的な評価で見ると、わずかではあるが、昨年度よりも0.01評価が下がっている。 ①各クラスで、言葉遣いの指導していることもあり、「正しい言葉づかい」が少し意識 できていたと考えられる。しかし、まだまだ人を傷つける暴言を聞くこともあり、正し い言葉の指導は継続して行っていくべき。 ②今年度は昼休みのみんな遊びや運動会の縦割り競技等、縦割り活動を行うことがで きた。その中で、上学年が下学年の面倒をみたり遊んだりする姿も多く見られた。 ③いじめを許さない態度や、人権意識を高められるような道徳の実践力を育てる活動に 取り組むことができた。 ④各学年で、道徳担当を中心に資料作成をすることができた。 ⑤今年度も道徳学校公開日を設定し、たくさんの保護者に参観いただいた。	①発達段階に合わせて「言葉づかい」の指導を行う。 ②縦割り活動も時間を精選（学期に2回程度）して次年度も行う。また、3月の縦割り 活動では、リーダーを5年生にバトンタッチし行う。 ③年に1回以上は道徳の授業公開を行う。道徳の研修を計画的に行う。（OJT研修等） また、道徳の学習について通信や週予定等で積極的に発信していく。 ④道徳の授業は、原則的には教科書を使った授業展開が求められている。副教材や資料 として使用した物（作成したもの）を引き続きストック・シェアできるようにしてい きたい。 ⑤学校、学年、学級の実態に応じて、適切な題材を適切な時期に実施できるように努力 する。いじめ防止啓発月間に、どの学年もいじめについて考える道徳の時間を設けてい きたい。 ⑥道徳の授業の時間数確保を確実に行之い、道徳科にふさわしい内容を実施できるようす る。
		5 道徳科の授業・評価に関する 研究や資料の開発・整備・交 流	1.9	B	2.2				
		6 保護者等への道徳科の授業公 開	2.2	B	2.5				
3	体力づくり	7 たくましい心と体を育てる 魅力ある授業の工夫改善	2.2	B	2.2	2.36	2.31	評定の根拠 教・児・保・協の評定平均が2.36のため。 総合的な評価で見ると、昨年度よりも0.05ポイント評価が上がっている。 ①今年の運動会は半日開催であり、全校児童が一同に集まって行うことができたことや 縦割り競技で異学年との交流が図れたりした。その結果、昨年度よりも総合的な評価は 上がっており、次年度も児童にとって魅力ある学習活動になるよう授業や取り組みの工 夫改善を行ったり、全校で1つの目標に向かって取り組めるような活動を仕組んでいき たい。 ②本校の体力テストでは「投げる力」に課題が見られる。「投げる力」育成に視点を置 いた活動を取り組んでいく必要がある。 ③運動や集団行動が苦手である児童が、消極的であったり、授業を見学したりすること もあるため、体を動かす楽しさや気持ちよさを味わえる工夫や、仲間と関わり合える活 動を大切にしていきたい。	①次年度は運動会を土曜日開催で行う。内容は今年度と同様で半日開催で行う。 ②児童が自由に使用できるボールを用意する等、投げる力を高めるための環境作りに努 める。 ③縄跳びの取り組みを盛んにするため、次年度はランキングを復活したり、縄跳びカー ド（低・中・高）を工夫したりする。 ④全国的に体力低下が課題となっているをしっかりと受け止め、低学年時から子どもが 活動できる時間の確保、授業のありかたを考え実現する。また、生涯において体を動か すことや、スポーツを楽しむことを意識づけできるようにしていきたい。 ⑤引き続き、伊香立小学校の強みの一つとして、この項目について、活発な活動を展開 していきたい。
		8 体力づくりを推進する運動 実践	2.2	B	2.2				
		9 体を動かす気持ちよさを体 験させ、進んで体を動かそう とする意欲の育成	2.2	B	2.0				
4	指導改善(組織 的・計画的)	10 学力向上を目指した指導体 制・指導方法の工夫改善	2.3	B	2.2	2.37	2.37	評定の根拠 教・児・保・協の評定平均が2.37のため。 総合的な評価で見ると、わずかではあるが、昨年度と同じである。 ①授業研究では、外部講師を招聘し、国語の振り返りをテーマとした中身の濃い研究が 進められた。授業研究以外にも教職員の指導力向上として、不祥事防止や防災、ICT研修 等多岐の分野で行うことができた。OJTも積極的にでき、指導力の向上につながった。 ②教職員数が少なく厳しいところではあるが、全体の学力を高めるため、学力向上の取 組を行ったり指導体制を整えていったりする必要がある。 ③宿題の出し方、新年度の児童の引き継ぎに対して不十分なところがあると保護者から ご意見をいただいている。 ④「学校は、児童の学力向上を目指し、わかりやすい授業づくりに努めている」という 項目では、昨年度より児童の評価や教職員の評価は高かったが、保護者の評価は若干下 がっている。 ⑤教職員は学校全体として一丸となり指導に当たれているが、細かい点については、年 度初めにしっかりと確認しておく必要がある。 ⑥今年度も学校公開や授業参観などで、積極的に保護者に見てもらおう手立てを講じる機 会が多く持つことができた。	①今年度同様に、計画的にOJT研修や長期休業中の研修を行う。また、授業研究では今 年度のテーマ「振り返り」を深めていきたい。 ②各学年の課題に合った取り組みをパワーアップの時間（【例】1学期：基礎基本 2学 期：ワークシート等）に行う。また、苦手な単元を宿題やドリル等で強化を図る。 ③学年・発達段階に応じた宿題を出す。自主学習も「学習のヒント」のようなものを出 して実施する。 ④公開授業月間を実施し、授業交流を学年の枠を超えて積極的に取り入れていきたい。 ⑤カリキュラムマネジメントを意識し、教科を横断的に指導できるよう、年間計画を考 えていきたい。また各教科におけるPDCAサイクルをしっかりと確立していきたい。 ⑥学校のスリム化を行い、文部科学省ガイドラインである時間外労働時間45時間以内 を目指せるように学校として引き続き取り組んでいく。
		11 教職員の指導力、情報活用 能力、及び組織的な教育力の 向上	2.3	B	2.3				
		12 働き方改革の取組と教育活 動の質の改善	1.8	B	1.8				

2024年度 学校教育評価表
(大津市立伊香立小学校)

項 目			評 価 の 観 点		自己評価				評価委員会 (3・2・1・0)		
					小項目 評価	昨年度	中項目 評価	昨年度	意見・提言等	来年度に向けての改善点	
5	育ちと学びを支える連携	① 家庭・地域との連携	13	保護者の子育てに対する積極的な支援	2.0	B	2.5	2.42	2.48	評定の根拠 教・児・保・協の評定平均が2.42のため。 総合的な評価で見ると、昨年度よりも0.06ポイント評価が下がっている。 ①HPやtetoru、学校通信などを活用し、定期的に児童の様子や学校での取組を発信することはできている。 ②今年度より保護者ボランティアによる見守り活動を毎木曜日や校外学習等をお願いした。 ③学校運営協議会や協力者会議は定期的に開催できた。 ④担当が家庭との連絡を密にとったり、必要に応じて複数の教師で家庭訪問もおこなった。また、必要と判断したときには、様々な関係機関や医療などと連携した。 ⑤地域で地域の子どもを守り育てるため、学区の行事が多く企画されたが、開催された際にはできるだけ参加した。 ⑥定期的に生徒指導部会やいじめ防止対策委員会を開催した。 ⑦学校危機管理マニュアルに従い、環境衛生点検・安全点検活動を毎月実施した。 ⑧避難訓練は、学期に1回実施できた。	①HPの学年の様子発信に関して、月に1回以上は発信するよう心がける。また、宿泊事業の時も積極的に発信する。 ②夏休みの課題について、学年の発達段階や課題に合ったものを行う。毎年、見直す。 ③年度当初は集団登下校を行う。児童の様子を見て、町委員さんと連絡を取り合い、登下校の方法を変えていく。 ④コミュニティ・スクールについて、全教職員への意識向上に努めていかないとけない。また、保護者にもコミュニティ・スクールの取組を周知していくことが必要である。 ⑤各行事の活動記録を写真で残しているの、通信などに変役に立っているの、継続していきたい。 ⑥民生委員さんとの交流やにゃーごさんの読み聞かせ、児童館との交流など引き続き実施していきたい。
			14	保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会、研修会の実施、地域人材の活用	2.2	B	2.2				
			15	防災教育の推進、感染症対策の推進等、安心・安全な学校づくり	2.2	B	2.3				
		② 保幼小中の連携	16	子どもの校種間交流や教員の出前授業	2.1	B	1.8	1.90	1.83	評定の根拠 教・児・保・協の評定平均が1.90のため。 総合的な評価で見ると、昨年度よりも0.07ポイント評価が上がっている。 ①学校夢づくりプロジェクトにおいて、地域、小中学校、保育園、幼稚園が一堂に集まり、イベントが実施できたことは良かった。また、2月後半には、1年生と五歳児さんとの交流予定。そして、保幼小中職員の交流では、一部の職員に偏りがちな為、全職員に情報を共有していくことが必要である。 ②小中の管理職同士が年に5回連携会議を実施している。また生徒指導の研修会や伊教研、学校保健委員会や学校運営協議会は小中合同で行うことで、教職員の交流も積極的に行えている。 ③早い段階から保育園や幼稚園に出向き、交流をしていくことが必要である。	①来年度も地域や保幼小中が集まり、伊香立らしい活動を行う。また、3学期には入学前の園児と小学生（1年生）との交流を行う。 ②次年度も小中合同の研究取り組みを行うが、テーマについては次年度の小中連携会議にて決定する。また、6年生児童と中学との関わり（中学校見学・出前授業等）を引き続き1学期から始める。
			17	校種間の授業公開や合同研修会	1.8	B	2.2				
			18	保幼小中の接続期の教育課程の編成等校種間のカリキュラム研究	1.8	B	1.5				
6	組織的体制の充実	① 生徒指導体制の充実	19	いじめや暴力行為、不登校等生徒指導上の諸課題の早期発見、日常的な予防指導 ※	2.2	B	2.3	2.40	2.43	評定の根拠 教・児・保・協の評定平均が2.40のため。 総合的な評価で見ると、昨年度よりも0.03ポイント評価が下がっている。 ①普段から子どもとの信頼関係を築くために子どもに積極的に声かけを行うことができた。 ②小さな問題行動でも、背景に「いじめの疑い」がないか考えて判断し、対策委員会を行うことができた。 ③日常的に学級指導などで生徒指導の予防指導を行うことができた。 ④必要に応じて複数の教師が関わり、家庭訪問等を行ったり、個別の対応を行うことができた。 ⑤必要に応じて子どもにはスクールカウンセラーによる面談をすすめたり、医療機関や各関係機関との連携を行うことができた。 ⑥問題が表面化しにくい課題を抱えている生徒への対応をより丁寧に行う必要がある。 ⑦授業に入れない生徒に対しての対応として、更なる校内ウィングの整備と人員確保が必要である。	①いじめ防止月間である10月に委員会中心（子どもからの提案）の取り組みを行う。 ②正しい言葉について、日々の継続した指導を行う。学習中と休み時間との使い分けの指導を行う。また、暴言は許さないという雰囲気を作る。 ③児童と落ち着いて向かい合うために、時間の確保するための工夫を行う。 ④学校、関係機関、地域が連携できるように今後も会議等を行い交流を図る。 ⑤子どもの状況に合わせ、随時面談を行い、児童との信頼関係作りに努める。 ⑦担任を中心に家庭との連携を密にとり、必要に応じて複数の教員で懇談や家庭訪問を行う。 ⑧積極的にスクールカウンセラーや医療、関係機関とつなげ連携を深める。また、必要に応じてケース会議を行う。
			20	生徒指導・教育相談体制の確立と組織的な推進 ※	2.1	B	2.2				
			21	家庭・地域・関係機関との連携による指導	2.3	B	2.4				
		② 特別支援教育の充実	22	個別的教育支援計画及び個別の指導計画の作成と活用	2.3	B	2.4	2.23	2.40	評定の根拠 教・児・保・協の評定平均が2.23のため。 総合的な評価で見ると、昨年度よりも0.17ポイント評価が下がっている。 ①堅田少年センターや教育支援センター等、関係機関と連携し、支援の必要な児童に対応することができた。 ②子ども支援Coを中心に校内就学指導委員会を開催したり生活支援員さん等の配置を工夫したりして組織的な対応ができた。 ③特別な支援を要する生徒について、保護者の了解のもとで個別の指導計画を作成することができた。 ④特別支援教育専門の講師を招いての学習会を行うとともに情報交換を行うができた。 ⑤支援を要する児童の数が多く、今後さらに困難になっていく。関係機関などの専門の先生と学校と保護者が話し合いながら、支援の体制を充実させていく必要がある。 ⑥特別支援学級の退級や入級については本人や保護者の思いに寄り添いながら慎重に進めていく必要がある。 ⑦発達特性から不適応を起こす生徒が増えている。特に個別の指導計画がない生徒については、気になった行動や家庭環境など、保育園・幼稚園との引き継ぎを確実に行う。	①次年度もケースによって様々な関係機関（北大津養護学校・教育支援センター等）とも連携していく。 ②支援の必要な児童に対し、計画的に組織的な対応を行う。 ③個別の指導計画を活用するためにも、児童の見立てや支援の手立てなどが検討できる時間を確保したい。 ④学級、学年の枠にとらわれず、学校全体で支援体制を組み全員で取り組めるように共通理解を図る。特に、年々個別の支援が必要な生徒も増え対応が多岐にわたることから、特別支援学級を担任任せにせず、学校として支援できる体制作りに努める。 ⑤特別支援教育の視野に立った授業改善をさらに行う。 ⑥特別な支援を必要とする児童の数も多く、また学校の対応にも限りがあるため、関係機関や医療との連携を積極的に進め、ケース会議等を適宜持つ。また、保育園・幼稚園との引き継ぎを確実に行う。
			23	組織的・計画的な特別支援教育体制の確立	2.3	B	2.5				
			24	関係機関と連携した相談体制の充実	2.1	B	2.3				

※ 特にいじめについては、学校基本方針の評価と関連させて行うこと

学校満足度	25	児童生徒の学校満足度	2.5	A	2.5
-------	----	------------	-----	---	-----

※	児童生徒アンケートのすべての評価の平均値(3点満点、小数第2位まで記入)	2.55
※	保護者アンケートのすべての評価の平均値(3点満点、小数第2位まで記入)	2.28